

水源禅師法話集 26

(2013年10月14日 忍野合宿)

2014年11月24日

一乗会



水源禅師のクティの湖にいる水鳥

目次

水源禪師法話.....	1
Intercept Karma (インターセプトカルマ)	1
因縁の原動力—無明と執着—.....	1
カクサンダ仏陀の法—「人のために尽くしなさい」「愛の中で生きなさい」—.....	2
「神」と因縁.....	4
質疑応答.....	6
人間界が法が一番、受け取りやすい—苦と楽があるから—.....	6
まずは自分を磨いて大きな法の華を咲かせよう.....	6
「神」について、経済と子ども教育.....	10
天界—他宗教をめぐる—.....	12
六欲天.....	15
異次元空間—弘法大師、五百の辟支仏、龍殿、パウオン—.....	18
ピラミッドのカーボロブドゥール寺院遺跡群—.....	19
オーラカメラと現代の測定機.....	21
無色界.....	21

水源禪師法話

Intercept Karma (インターセプトカルマ)

皆さんが瞑想をあまりうまくしているので、私が一番、恥ずかしいです。この衣を脱ぎたいくらい恥ずかしいです、皆さんよくおできになって。こうして旅を続けて、やはり一番近年において気になったのは「Intercept Karma」(インターセプトカルマ)と言って、ジェット機がこう飛んでいけば Intercept するでしょう。英語で言えば「Intercept Karma」ですね。英語では Interceptor と言って分かるのだけれども、日本語では何と言ったらよいか分からないけれども。結局「Intercept Karma」ということに非常に興味があって、出会いとかいうことで、人生はどんどん変わっていくという、この「Intercept Karma」。お釈迦様に出会うことによって、もう無量の方々が救われているとか。出てこなければ救われないし。出たときにちょうど出会うと。「Intercept Karma」ということに、非常に興味があってね。

このことを明快に示したのが、本当の阿羅漢といわれるレディセヤドー (1846-1923)。1846年に生まれて1920年代か、そのあたりに他界されて。サガインの図書館に行ったときに文献を読んだのですね。今でも大学があって、いつも2000, 3000人の比丘が、そこで勉強する、今は教学大学、経典大学になって。そこで英文で見た文献で、彼だけが明快に私が知りたい「定」(ジャーナ)のことに、彼だけが明快に示したことがあるのですね。

いつもジャーナのことに、私が体験して、ある一つのことだけが、ちょうど誰も説明していなくて、「これは一体、何だろう」と思っていたけれども、彼だけが明快に書き記してあるのですね。それで、そこで彼の残した文献が知りたくて、でもほとんどないのですね。それでパオセヤドーに「実は〈Intercept Karma〉のことに、調べたいのですが、あなたの書いた『Working of Karma』(これですね、これを頂いたのですが)欲しいのですが」と。

(パオセヤドーは)「その本を私はこのメイミョーで今、持っていないから、モーラミヤインの本部に行って受け取ってくれ」と。「それで用意しておきますから」と言って、それで受け取って、そうしたらウ・レヴァタ長老が「レディセヤドーよりも中身はこちら『Working of Karma』の方が詳しいよ」と。

因縁の原動力—無明と執着—

結局「因縁がどういうふうにして、どういう強い力で働くか」ということを知りたかったわけ。その理論ではアビダンマでこう書いてあるけれども、実際の力はどういうふうにして働くかということを知りたかったわけですよ、どういう原動力で。「因縁の原動力はたった二つ」と明快に書いているのだけれども、先ほど言ったように、間違っただけを正しいと言うこと、原動力—「無明」。「本当の真理は世俗で考えられていることでは絶対に分からない」ということをお釈迦様が言っているわけ。本当の真理は結局「四界分別」「十二因縁」全て観

た後で本当のことが理解できるから、それを体験しないで、いくら知識を入れても、これは「無明」になると言うことなのですね。この「無明」—原動力。だから、どんなに科学が発達しても、どんなに神様が出て、宇宙の究極の真理を観ないで、いくら神様から大神様から教えてもらっても、結局これは「無明」「アビッチャー」になって「地獄界に行く」という決定的な力になっているのですね。

それから、もう一つは「執着」「タンハー」。「渴愛」と言ってもよいのだけれども、「執着」の方が明快だと思います。結局、競馬に渴愛中毒というか、お金に中毒とか、冒険に中毒して、今はやりの空中を飛ぶジェット機でポーンと行って死んだと、そういうことが好きだとか。というふうな全てこれは「執着」と言った方が私はよいと思います。例えばフットボールが大好きで、負けたから激しく言って喧嘩してコロッと死んだ、とかいうことがよくあります。このことを言っているであって、ただそれを「渴愛」、「渴愛」という言葉によって、他は皆よいのかと。結局、言葉とか、これがほとんど「無明」の中に生きているものだから、その中で私たちはちょうど犬が大きな柱をくるくる回っていると。「出たな」と思ったら、そこに柱があって、そこから出られないようになってるのが、今の因縁の力で、いつまでもいつまでも大きな柱の中で出られない、ということの例えでそういうふうに言っていました。

カクサンダ仏陀の法—「人のために尽くしなさい」「愛の中で生きなさい」—

あまり私の過去世のことを話したくないのだけれども、今から私の 20 世前の話ですね。生まれて死んで。そのとき私は比丘でずうっと遠い、遠い想像を絶する時空の時間帯だけれども。なぜそれが分かるかという、私が追跡した過去はどれくらいの寿命帯かということに分かるのだけれどもね。そこでアビダンマが有効になってくるわけ。この天界に生まれたら歳はいくつとか。そういうことで実際、今度はアビダンマが有効。それが分からずに体験なくしてやった場合には、やはり吹っ飛んでしまいます。なぜかといったら、ある寿命帯（非想非非想処）は、この宇宙が 64,000 回、発生して消滅して、発生して消滅して、それくらいの時空に入りますから。想像を絶する時空帯。

だから、今 100 年とかの考えで「アインシュタインが正しい」と 100 年くらい思ったけれども、今その理論が潰れ始めているわけ。「神の粒子」といわれるヒッグス粒子が今、発見されて、ノーベル賞を受賞されましたけれども、アインシュタインは世界で最高に分かっているというホーキングさんね、その人と賭けして 100 ポンド負けたと。

ということで、今回つい数カ月前にロスアラモス国立研究所の実験でそれが証明されて、「やはりアインシュタインの理論はどうも完全ではない」ということが分かったわけ。だから「このことが絶対的」と思い込んで、哲学も組み上げられてきましたからね、全てが。私たちが小さいときは「この宇宙はモヤーっとしてから発生した」と、ビッグバンではないのですよ。そういうことを言う人は頭がおかしい人だったわけ。つい近年までがこの「ビッグバンから出た」と言うことが主流になって、科学の世界はどんどんどんどん変わっていく。

宇宙が 64,000 回、発生しては消滅、発生しては消滅すると、そういう時空よりも無量永劫の時空の知識の仏の力が教えであるから、そう簡単のものではないわけ。それがたった一つ

「愛」という言葉に秘め込められたりして。「人に尽くす」という言葉に集約されるわけ。私が法を求めて、法を求めて「誰か真理を教えてくれるのではないか」と、先生を探して、先生を探して、そのときこういう衣をつけてね、木の下で死んでいったわけ。出遇えなかった。それで、次に生まれたところが天界の天国の王様に生まれたわけ。天界に生まれたときは全部知識を持って忘れないのですよ。どうして死んでここに来たかと。というのは、天界に生まれるときはお腹で生まれるわけではないのです。パーンと空中から出てしまう。人間が死んで幽霊界（餓鬼界）に行くときは一瞬にして、そのままパーンと幽霊界。でも、体がそれは綺麗な16、7、8歳の素晴らしい美しい体になっている。ダーッと変身している。それで、その全宇宙を探し回ったけれども、それは生命帯が非常に長い時間ですよ。法が見つからなかった。それだけ苦労した。「一体、法とは何か」。それで死んでいって「法に遇いたい」という願い。

その「執着」によって、今度は白い牛に生まれたわけ。そのときに出遇ったのがカクサンダ仏陀（拘楼孫仏）、カクサンダ仏陀をずうっと引いていたわけ。それで、ずうっと聞いていたときの法が「人に尽くしなさい」「愛の中で生きなさい」この二つ。という法を受け取ったわけ。言葉では簡単で皆さん朝から晩まで言っているけれども、この言葉二つだけでも宇宙が消滅して64,000回の時空を通ったって分からない。結局、無明の中で生きているから、いつも犬が大きな柱の周りをくるくる、いくら回っても、この真理には出遇えない。だから、宇宙には想像を絶する「Super Civilization」（超文明）がいっぱいあるけれども、コンピュータでも想像を絶するようなものがあるのだけれども、それでも消滅してしまうわけ。大体、終末は大戦争で破滅。その繰り返し。

というふうに「法に出遇える」ということは大変なことなのです。だから、お釈迦様が「法を知りたい」と言って訪ねていって、そのある老人の先生に頭を下げて、「法を教えてください」と。そうしたら「お前が火の海に飛び込んだら教えてあげよう」と。そう言ったわけ。そしたら「よし」と言って、お釈迦様が火の中に飛び込んでいくときに聞いた言葉は「人のために尽くしなさい」と。この法を一つだけ。法を得るために命を懸けるわけ。だから、言葉というのは非常に深い意味があります。「体験による言葉」ということ。結局、「阿弥陀」という「体験の言葉」を、これだけ一つ分かったことで、もうすごい境地にってしまうわけです。

近年においては、カルメル会のセント・テレジア¹（1873-1897）。若くして24歳で死んでいったのだけれども、この方は「愛」ということについて、必死に探し求めて到達したみたいですね。たった一つの言葉。だから、ギリシャの人はとても哲学が大好きで、やはりギリシャの人と深い哲学の話をするわけなのです。そうしたら「言葉というのは、1個の言葉を理解するのに数千年かかるよ」と。「世界制覇したから、もう後はあまり何も興味ない」って。全てギリシャから出ているから。だから、ギリシャの人はそこがすごいのですよ。だから、そういう自動車をつくるとか、科学とか、もうそこから全部、出ているから。それで、この一言「一言を完全に理解できるのに、数千年かかるよ」と。

¹ リジューのテレーズのことで、19世紀フランスのカルメル会修道女。

私たちは 2000 年、5000 年、まあ雲の彼方、数千年かかるという時空の体験を持っているわけ。なぜかといったら、ギリシャで有名なヘロドトス（紀元前 485 年頃-紀元前 420 年頃）という歴史学者が、今から 2000 年か 3000 年前の方で、エジプトのお坊さんが、過去のいろいろお話をしたわけ。そうしたら「私たちのこのエジプトの国は 2 回西から太陽が上がって、2 回東から上がる歴史を持っています」と。私たちは今 365 日と約 6 時間だから、閏年（うるう年）と言って 1 回ありますけれども。スメリア（シュメール）カルチャーの場合は 360 度、360 日なのです。それで、この地球がどんどん遅くなることを逆算していけば、想像を絶する時間帯の前に戻るわけ。

というふうに、私たちがこうして考えて受けた教育は、プリンストン大学で全て決定して、1920 年代からもう作文化されて「どういうことを教えよう」ということが主流になっているわけ、すべての分野において。そこから外れれば仕事ももらえないし、学校も卒業できないという仕組みになっているから、みんなそれはそれでシステムの中でよいのだけれども、「システムと実際は違う」と、お釈迦様は言われた。だから、「法を求める」ということは大変な栄光を受けるわけなのですね。

「神」と因縁

だから昨日ですかね、午前中に万（よろず）の日本の神々がサーッと現れてきて、5 次元の時空になりますね。そうしてその後、ここにちょうど紺色かな、もっと濃い紺色の反物（たんもの）がポーンと出てきて、大体 2 尺から 3 尺で厚さが 2 寸くらいかな、ポーンと、何のことだろうと、バーッと空中に浮かんでスーッといいたら、コノハナノサクヤビメ（木花咲耶姫）様がスーッと降りてきて、こっちで頭を下げる。そうしたらその眷属方、無量の地の神々がワーッと守って、今さっき帰られましたけど。

今日の朝やっていたら、世界の大神様たちがスーッと集まってきました、祝福してくれて。だから「Our Lady of Guadalupe」（グアダルupesの聖母）とか、イスラームのご本尊である 3 人の女神とか、聖書でも「神」と言ったり、「神々」と複数で言ったりするのですよ。複数でいう「Gods」と言ったり、「God」と言ったり、明快にしていないです。なぜかといったら「神々はイヴのことについて、とても喜んだ」と。「神」ではなく「神々は」となるわけ。「Gods」、「God」。そこら辺を「神」、「神」と一つになったり、複数になったりとか、混沌としている。

そういうことで「神」と「仏」ということが非常にあやふやになっているけれども、「神」も時空を超えれば、また人間界に戻るわけ。犬が巨大な柱の周りをくるくる走り回るように、時には梵天になったり、人間界に墮ちたりとか、その繰り返し。だから全ては「インドラ（帝釈天）の網」¹の中にいると。このこと。

「因縁」ということは、はかり知れない巨大なものであるし、大ロマンであるし、現実としては、この 7 月に突然、豪雨が降って、豪雨がちょうど私の寺の真上で動かないで、どっ

¹ 因陀羅網：『華嚴経』「如来昇兜率天宮一切宝殿品」などに出てくる言葉で、帝釈天の宮殿を飾る網。その無数の結び目一つ一つに珠玉があり、互いに映し合うことから、一切のものが互いに障害とならず関連し合うことにたとえる。帝網。

さり落とすわけ。私の住んでいる家のあたりは山のでっぺんみたいな造りになっているから、絶対に水は落ちてたまらないはずなのに、山のでっぺんが湖みたいになった（笑）。その前に宝生仏が現れて、「なんで南の宝の仏が現れるのだろう」と。ワー、地下に水が上がってきて災難になって。災難になって、今度は去年から湖の家を改築しなければいけないし、資金も必要だしと悩んでいたわけ。そして「いやーどうしよう」と思ったら、保険会社からどっさりお金が下りてきたわけ。そのお金を使って、私が今度、材料費だけでやるからね。大体、10分の1、高いのは4分の1の建築費で、どんどん造っていけるからね。その工具も入れて全部、買い集めて。だから、まあ楽々と資金面ではできていくし、あとは時間と私の体と。というふうに、これが「Intercept Karma」。大なり小なり、結局「人のために尽くしなさい」「愛の中で生きなさい」という、この「二つの法」を受け取って、この合宿で皆さんにご報告したいと思います。



水源禅師の建設中のクティ

質疑応答

人間界が法を一番、受け取りやすい—苦と楽があるから—

【参加者】

私たちは今、無明の中で生きているということですか。

【水源師】

そうです。全てが無明です。あの天界に行っても無明です。天界に行ったからといって、法を受け取るわけではないのです。ただ人間界に生まれたときだけが、一番、法を受け取りやすいわけです。なぜかといったら、結局「苦と楽がある」から。天界に行けば楽、楽で、もっと高い天界に行けば、それこそ何もなくてもよい。楽、楽、超楽。だから、学ぶとか努力しなくても、食べたいと思ったら、すぐ食料があるし、宮殿に住みたいと思ったら、すぐ宮殿ができるし、思うとおりの生活ができる。そうしたら、学校に行かなくても100点満点で卒業してしまうという。だから努力しなくていい。

【参加者】

苦と楽のバランスが人間だと、ちょうどよいのですか。

【水源師】

そう。「楽と苦がある」からこそ、努力しなければいけないときもあるし、苦があるから、今度、楽になろうとする。ここで結局、心が開発されていくのでしょね。

【参加者】

やはり根本は「心を育てる」ということでしょうか。

【水源師】

そうですね。温室の中では、やはり強い物が育たないでしょう。ところが、寒い氷の中では、またこれも育たないでしょう、それで、ここはちょうど暑い寒い、植物がものすごくよい環境で育つ状態なわけ、ということです。

まずは自分を磨いて大きな法の華を咲かせよう

【参加者】

無明のことだと思のですが、お話をお聞きして「世の中は法と違う」ということで、確かに世の中では、そういうことがいっぱい起きていますよね。ほとんどの人はそれに気が付かないし、それが正しいと本当に信じてしまっていますよね。「おかしくなっている」と言えば、おかしくなっているのでしょうかけれど、だからといって「それが違うのではないですか」

と言っても、しょうがない話ですよ。政治が動くわけでもないし、極端な話、家族に言っても分からない。「何言っているの、あなたおかしいのではないの」って言われちゃうわけですよ。そのときに淡々と自分の心を精進することは分かるのですけれども、自分の家族に話しても分からないことですね、説明しても相手は。ただ、そういうことだと理解して、淡々と自分が精進することしかない、というふうな理解でよいですか。

【水源師】

そうです、実際は。結局「人のために尽くしなさい」「愛の中で生きなさい」と。その場に落ちた種は、大きく強く美しい花が咲きます。その花からは、たくさんの素晴らしいフルーツが出てきます。その果物が地に落ちて、たくさんの人がまたそれを食べて、また恩恵を受けます。この花が動き回って、あちこち話しかけたって、根が取れるものだから、死んでしまいます。ただただ自分で大きく、大きく素晴らしい花を咲かせれば、それ自体が周りの人に燦々（さんさん）と愛と命を与え、そしてそれを糧にして、この周りの人たちが育っていくと。中には受け取れない人もいますけれども、そして大きい、大きい巨大な花になった場合には、地球全体を包むとなったら、当然その下でたくさんの、たくさんの言葉を言うことなくして、受け取っていくでしょう。だから「まず自分をどんどん磨いて、大きな、大きな、大きな、法の華を咲かせればよいだけ」のこと。そうしたら、自動的に人が集まってきて、話を聞いて、そしてその恩恵を受けると。

ところが、私たちはすぐ助けに行きたいと思うのだけれども、つい最近もお父さんが子どもを救おうと思って、川に入って行って死んじゃったと。よくあります。やはり助けて一緒に死ぬのか、それが美德なのか。でも仕方ないと、綱を投げるか、なんとか精一杯やると。自分の命を落として、子どもが助かるのだったらよいけれども、子どもと自分も死んでしまうと。その絶妙なところですね。

中国では、つい最近こういう話があるのですよ。今、金、金、金でみんな儲けたいと。今から十数年前の話だったかね。文化大革命が終わって、これから経済が発展する、ちょうどそのあたりです。農村でも、もっと金を儲けたいと。豚をたくさん育てると。それで豚が川に溺れそうになったわけ。その豚を助けるために、中学生が川に飛び込んで助けようと思ったけれど、死んじゃったわけ。それは「金のため」に飛び込んだわけ、「その豚の命を助けるため」なのではなく。というのは、中国では仏教もほとんど潰れて、命ということではなく、金のために飛び込んで行って命を落とすと。これはバカだと。ところが、仏教の場合では「動物だって命なのだから、助けなければいけない」と。ということで飛び込んでいく、としか考えられないわけ。そうでなければ放っておくか。ところが、もう宗教が潰れたもので「命を懸けて動物を救う」ということは、もはやあり得ないわけですね。「この金が無くなるー！」と。ダーッと。だから、その違い。「法がある」、「法がない」。

だから今、中国は大混乱を起こしている。子どもが車にひかれてポーンと車が逃げちゃうわけ。人も歩いて、何もしないで通り過ぎてゆく、それがちょうどカメラに映っていたわけ。これが大問題になって、これほど人の命が安くなるものかと。政府の方でもびっくり

してしまって、これはもう大変だと。三つになる女の子が車にひかれて泣いているのに、親は中にいる、通行人は行く、車は逃げてしまうと。だから、「法がない」ということは、大変なことなのです。物質的なことばかりに考えて、生活をしたら、このように社会が病気になってしまいます。アメリカはまだクリスチャンで「神」、「神」ということがあるけれども、共産主義では宗教を禁じたものだから、考えがもう結果として、こう現れたわけ。

今から 17 年前に私が中国に行って、北京师范大学（北京師範大学）、そこが教職課程の最高峰学校です。今、中国では北京師範大学が頂点なのです。なぜかといったら、今、中国で一番尊敬されている方というのは、学校の先生方なのです。その学校の先生を教える大本（おおもと）が北京師範大学です。私がそこに行って「これからあなたたちは宗教をやらなければ、大変なことになりますよ」と。頭がよいから、それから数年後に全中国の大学に宗教学科を作ったわけです。でも、実態体験と違って、学問では研究になってしまうから、今の事態が発生してしまうのです。

中国が大変なことになるときに、（水源禅師が）すぐさま伝達して「中国ではすべて道路を開放して、路上で商売させてください」と。そうしたら、すぐそれを実行して、大変なことにならなかったわけです。というのは、世界的経済飢饉になって、大変なことがアメリカのウォールストリートで発生したわけです。一般の人は税金とか関係なく路上で売ることがなければ、共産国ではお金が入ってこないから、大変な混乱状態になると思います。それで「すぐ開放してください」と、そういうことを伝達したら、すぐ政府が実行して、そのときに国が安定したようです。というふうに底辺を守らなければ、過去全ての国が崩壊しています。

なぜ私がそれをしたかと言えば、中国が爆発したら、日本は恐ろしい火の粉をかぶります。それが分かっていないようですね。あの巨大の国がハングリーでバーツと荒れ始めたら、現代はチンギス・カンの戦国時代どころではないことになると思います。だから、安定して発展してこそ、世界が今は持っているけれども、中国が爆発したら「もう人類は簡単に滅亡する」という事態に今、発生していたはずです。実はアメリカの偉い人たちは、生産工を中国に持っていつているわけです。もうこれは 14、5 年前。という世界の動きと、現実の新聞のメディアとは違う、滔々とした巨大な動きで動いています。

ということで、あまりメディアとかに振り回されずに、やはり先ほど言った宇宙の大真理の中で淡々といけば、地球が破滅したって、もう大丈夫。だから、偉大なフランスの哲学者パスカルがこう言いました。「もし私が今日、真理を知ることができたら、明日、地球が破滅しようとして、私は幸せだ」と。ということは「もう輪廻転生で他にいく」ということは分かっているようですね。「生きることは、ただ真理に出会う」と。「この真理とは何か」ということを、お釈迦様が言ったことは「人のために尽くしなさい」と。

それで、次に生まれてくる方はマイトレーヤ (metteyya)、弥勒仏。「マイトリー」(maitri) というのはサンスクリット語で「愛」。パーリー語で「メッタ」(metta)。「愛の仏」が出てくるという。だから、カクサンダ仏陀（拘楼孫仏）が法を説いたのは「人のために尽くしなさい

い」「愛の中で生きなさい」と。この「愛」ということは実に難解なのです。イギリス女王、クイーン・エリザベスがお正月のメッセージでこう言いました。「私たちは過去 2000 年、〈愛、愛〉と言いますが、一心に勉強してきたけれども、いまだに私たちは愛ということが分かりません。そのおかげで私たちは悲惨な戦争、悲惨なことが次から次と起こっています」と、今からもう 20 年前にこう言っていますよ。だから、非常に深い意味があります。

なぜかといったら、心は「愛の空間」「慈悲の空間」「歓喜の空間」、そして「大平安・ウペッカー・捨・なんの憂いもない空間」。これ四つの家になっている。この中で心が組み合わさっています。その心の仕組みがアビダンマで 28 の因縁の物質と 81 の心の因縁の組み合わせで、ソフトウェアで一瞬一瞬つくり上げていくわけ。基本はこの四つのスペースが重なっているのが、心の基本になって、できているわけなのです。

だから、ここで私の先生が言いました。「仏教で愛を取り上げたら、もうこれは仏教ではなくなる。仏教は存在できない」と、明快に、この前、聞きました。だから、全てはこの方法で世界は動いているわけです。おしべ・めしべ、結婚生活、恋愛とか。それを超えたときに「人を慈しみ合い、人を助ける」と。それで、それを超えたときに、もっと宇宙の大ロマンの「歓喜の世界」が分かり始めるわけですね。それを超えた挙げ句で「大平安の何の憂いもない世界」が分かり始めます。

だから、私が一番好きなのところは、森とか山の中に一人で暮らしたことが、もう最高の幸せですね。周囲、数十キロ、誰もいない聖地の山奥で、そこには電波も何も来ないから、もう本当の地球の命の中で生きているのと一緒にですね。テントの中で朝起きるでしょう。まず火を起こさなければいけない、煙。それで一つのコップ 1 杯の珈琲を作るのに 1 時間くらいかかるわけ。だから、1 日中そんなことをして食べることで終わって、寝て、次の日。すぐに 1 週間、過ぎてしまうけれども。まあ「天国に来て住んだ」というふうな、帰りたくなくなっちゃうね、そこに住んでいたら。

逆に「そういうところであれば、一人で苦行して」と、そうではなく「私にとってはもうこれほどよいところはない」と。だから私の先生に言われた。「お前は一人で洞窟とか山とか森の中に住んではダメですよ。街の中に住みなさい。ちゃんと皆さんと一緒に修行しなさい」と。もうそういうところに住んでいたら、もう 1 日が 1 時間くらい。ずうっと湖を見たら、朝から素晴らしい光が踊って、どんどん色が変わって、空も色が変わって、もう劇場なのですよ、大劇場。「あー昼、あー夕方、あーもう夜だ」。対岸の光がサーッと照って星が出て「あー寝るかな」と。起きてまた、もやの中に。そういうところにいれば、もう帰りたくなくなる、また帰らなきゃいけないとか。それで、そういうところで 1 週間、人と話さないで暮らすでしょう。心がスーッと洗われて、もうすっきりした、ものすごく幸せな感じになります。今度、人と話したらまたダメ、憂鬱。それでまたそこに帰って、スッキリしたらまた帰ると。超贅沢な暮らしをしました。

【参加者】

そういう生活はダメなのですか。

【水源師】

やはり自己主義みたいになるかもしれませんね。修行をする過程はよいけれども、でも、私は、実はそういう生活に憧れて「したいなあ」と思ったのだけれども、最後に「先生この衣を着てどうしましょうか」、「お前は森とか山に住んだらダメよ、街の中に住みなさい。瞑想はどこでもできます」と言われて。やはりそういうところの方が私にとっては天国ですね。

【参加者】

今は街の中で暮らされて、いかがですか。

【水源師】

やはり疲れますね。あるドイツの人がスリランカで二人、30年、森の中に住んでいるわけ。一般の人は「あ〜聖者だ、聖者だ。森の中で30年、暮らしている」。私が「その人から、どういうお話を聞きましたか」、「うん、ダーツと」、「それは嘘。本を言って述べているだけでしょ。そこには一つもダンマ聞けないですよ」と言ったら、その人が怒っちゃってね。「聖者の言うことをそう言っちゃうの」と、他の方の話ですけど、その比丘は修行道場で6年間いると。「それでは、どこまでいったの」、「いや朝から晩までお経を読んでいる」と。「何、お経を読んでいる?」、「そういう無駄食いしているということ。お経はどこでも読めるからね。そこは修行道場であるから」ということをバシッと言ったら、その人はブスっとなってしまって「少し出しゃばり過ぎたかな?」と思いました。

「神」について、経済と子ども教育

【参加者】

僕らの考えから「神の世界」のことをあまり聞くのはあれかもしれませんが、先ほど「イスラームの神様もこちらにいらっしゃっていた」というお話があり、先日の法話でも「イスラームの教えが正しく教わらなくて、ぐちゃぐちゃになっている」ということがありまして、神様も正しく伝わってないというのは多分、分かっていると思うのですが、そこら辺が間違っていて伝わっているから、「ちゃんと正しい教えを改めて、イスラーム世界に下ろさない」とか、「間違いを正す」みたいな考えがないのですか。

【水源師】

やはりアフガニスタンでもガンダーラ美術で有名な仏教の大聖地だったのですよ、全部、破壊して。先祖様が造ったものをぶち壊しましたね。結局「神、神」と言っても分かるように、ご先祖様が偉い大神様になったりします。それで、その子どもが家を破壊して、それでも助けようという境地になるのは、仏陀くらいの精神界に入らなければできないでしょう。そういう神々でも人間の心と変わらないからね。怒りだけが発するでしょう。永遠に築いたものを簡単に破壊します。というのは、お父さんお母さんが一生懸命、食べさせて、大きな

家を造った挙げ句「こんな家はいらぬ」と、バンバン潰して、供養も何もしないで、今度他のものを持ってきて小屋を建てたら「お前、その小屋に永遠に住みなさい」と。それで、その子どもたちが喧嘩したら「喧嘩しなさい」となってしまうのではないですか。神であろうが、人間であろうがね、心が一緒だからね。

だから、キリストの大神様が「私はヤキモチの神である。他の神を祈ったら、大変な災いを与える。私だけを拝みなさい」という一説もあるわけです。「私以外は信じてはダメです」というふうなことを書いてある。「私だけを崇めなさい。なぜなら、私があなたたちを育てたでしょう。なぜ他に行くのですか。ここに来なさい」と。

ところが、私たちはもっと大きい「大宇宙的な神」を言っているのでしょうか。そういう「大宇宙的な神」は、実はいないわけ。なぜかといったら、ユダヤ教はユダヤの人のための経典。それを全世界に今こう、どんどん改革して行って広めたけれども、どんどん改革していった挙げ句は、やはり仏の言葉になるわけ。「愛」という普遍的なものに気付いて、仏教と変わらないところに入って行くわけ。

だから、人生というのは学校みたいなものだからね。やはりそこで「勉強、嫌だ」と逃げ回ったら、耳つかまれて「はい、机、勉強しなさい」と、先生からの押し付ける教えでは、机で寝ていると思うよ。やはり自発的に「勉強したい」という心がなければ、無駄だと思えます。やる気がないので、とうとう学校を逃げて、給食時間になって、お腹すいたから帰ってくると。そういうふうな例え話だけでも。ということで、私たちは「救う」「救われる」「救わなければいけない」「救わなければいけない」という、それは素晴らしいことで「愛の実践」だけでも、その力があって正しく救える場合はよいのだけでも、ほとんどは間違っただけで救ってしまいますね。

なぜかといったら、むやみやたらに救うことに熱心になってしまって、アフリカでマラリアが発生するののだけれども、ワクチンを打って、マラリアが発生しなくなったわけですね。そうしたら今度、人口が増えて、子どももいっぱい。ところが、食料で食べさせなければいけないから、財政難になって、みんな死んでしまったわけ。結局「助ける」ということは、生まれ落ちてから死ぬまで総体的に社会が安定させる、その中でやらなければいけないけれども、一つだけやっても、それ自体逆におかしなことになってしまうわけです。自然界の中の病、それは苦しく悲しみの連続だけれども、今までは村が何千年も続いてきたわけです。ところが、マラリアの予防注射を打って、子どもが全部、生きておかげで、今度、食糧難になったわけです。ところが、小さい村で突然、今度、人口が増えて、子どもを養わなければいけないと、そうしたら食べ物がない。そして、みんな餓死してしまったわけです。

中国では都会に住む夫婦は、子どもは一人だけ産めます、村ではいくら産んでもよいわけです。「子どもを一人、育てる」というのは、すごく経済的な要求が社会的にされるわけです。だから、一時期にシエラレオネというアフリカの国は、子ども何人つくってもよいのですよ。その代わりエイズが流行って。学校の先生も死ぬ、両親も死ぬ。五つか六つのお姉さんが三つの弟を養っているわけ。平均寿命 18 歳まで落ち込んだのです。国としてはもう機能しなくなるわけですね。

カナダでも巨大プロジェクトがあるときには、全部アメリカから技術者が来なければできないわけです。というのは、大学を卒業させてエンジニアにさせて、そういうことをするには莫大なお金がかかるのですよ。人口も少ないし。カナダの場合は、莫大な資源があるから、英才教育で大学も20人に1人しか通さないわけです。私が移住したときは全部、公立大学でした。私立大学はないのですよ。全部大学に入れたら、財政やっていけないでしょう。ところが、日本の場合は、どんどん工学部とかあるけれども、あちらでは莫大なお金がかかるから、めったにつくらないわけ。それで今度、巨大なプロジェクトがあった場合には、全て外国から雇って、だから、いつまでも工業社会が育たないわけです。ところが、逆に工学部とか、どんどん建てたら、それに合う採算しなければいけないでしょう。人口が3000万しかいないから、当然、破綻してしまうわけです。だから、何で車を輸入して材料を売るとか。こちらの方が経済的によいし、カナダは子どもも生まれませんよ。だから、移民がなければ潰れてしまうわけ。年間20万は必ず補給しなければいけないわけ。経済が楽になったら子どもをつくらないのですよ。

なぜかといったら、私の子どもは「今年はどここの国に行っておいで」とか、そんなことばかりやっている。そっちの方が忙しくて、楽、楽、楽ばかり、個人主義だしね。個人を尊重するし、だから、一切、私も宗教も押し付けられないし、「全て自分でしなさい」と。でも、やはりこう人生に対して非常な疑問を感じているでしょうね。それはよい仕事について、全てがある人生の社会だけれども、何か空虚なものがあるみたい。私はそれも言わない。それで「全部、自己処理しなさい」と。逆に助けた場合には変なことになるわけです。一切、朝から晩まで教えなければいけないでしょう。そうしたら、私が皆さんに会えないですよ。「後はある程度、自分で探しなさい」と。そうでなければ、育たないですよ。その因縁によって、たまたまそういうところにやってみて、そこで勉強できなかつたら、ま、「次の因縁を待つしかない」というところではないですか。だって「法を求めるのは、そう簡単ではない」ですよ。そういう過去の巨大な因縁があったって、私は何回も命を落とすようなところに行って、やっとここまで来て、この「法の果物」は、やはり皆さんのために今、私なりに「一緒に食べませんか」と言っているのですけれども、そういうことで頂いてもらえば、こちらこそ有り難いです。

天界—他宗教をめぐる—

【参加者】

今「天界」と言われましたので、ちょっと私の理解が間違っているかどうか、確かめたいので、質問させていただきます。「六道の輪廻」という言葉が仏教でありまして「地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天界」とありますね。その六道の天界に、今世で善いことをして上がった、そこで楽、楽だから、ストーンとまた地獄に墮ちる、というお話でよいのですね。

世間から出る出家をして修行された方々は禅定に入ると、もうお母さんのお腹には宿らなくてよいということですか。人間界というか六道の間に。それからまだもっと上の位があるのでしょうか。

【水源師】

あります。「欲界」というのは「六つの天界」(六欲天)になっています。阿修羅ではなく、人間の上に天界があるでしょう。それが六つに分かれています。第一天界から第六天界まで。その上にまた「色界」という世界があります。ブラフマン(梵天)の世界。その上に「無色界」という世界があります。「無色界」の一番長い生命体のときには、もう体はないのですよ。体はないのだけれども、全くあなたたちが今、生きている状態なのです。ちょっと分からないでしょう。全く変わらない。ところが体がないわけ。でも「無色」だからルーパ(色)¹がない、物質がない。だから、大宇宙が64,000回、発生消滅、発生消滅して、その一生のうちそれが見えるわけですよ。それが「無色界」。「色界」というのはブラフマンの世界で、巨大な体で、大世界の生命体は、時には地球くらい大きいものが、1個の生命体がゴロゴロしてお話ししているわけ。素晴らしい体になってみたりして。

「欲界」の第四天界、「兜率天」(都率天、観史多天)だけが修行できるのですよ。普通、比丘はみんな死んだら「兜率天に行きたい」と。そこの中には大きい森があって、修行できるのはそのエリアだけ。その周りはみんな楽しくて綺麗で修行できるわけではないのです。そこには比丘はいません。比丘はいないのです。こういう衣を着るのは、この地上界だけ。お坊さんはこの地上だけ。天界にはお坊さんはいません。

なぜ「そこに行きたいか」と言ったら、そこで今、弥勒菩薩様が修行しています。「兜率天」のその森の中で弥勒菩薩が修行しています。お釈迦様が生きていたときは、確か「アジタ」(阿逸多)という比丘の名前で授記(仏になる予言)を受けたと。南伝では、この方だけが授記を受けたと。北伝では、そのほかたくさんの方々が授記を受けて、いつの世でお前はあるところで成仏する、『法華経』には大比丘、比丘尼すべてお釈迦様が授記を与えたと。そういうことになっているのだけれども、今、実際、南伝でも北伝でも「弥勒菩薩は次に出てこられて成仏する方」といわれています。実際に「兜率天」の時空でちゃんと修行しています。

そういう修行だから、行者になれば、自分の体・分身をいくらでもつくれるわけなのです。インドのヨガの行者が、ずっと修行が上がっていけば、瞑想で自分の分身をつくってしまうのですよ。実際に行動してしまったりしているようです。また、非常に激しく信仰しているヒンズーの方はある神にお祈りしているときに、お祭りに行かなければいけないわけ。そのお祭りに行ったときに、自分の会社の鍵を持ってきてしまったわけです。会社が開かなければ、金庫も開かないし、会社が潰れると、大変なことだったわけ。もうそのことで頭がいっぱいで、ザーッと帰ってみたら、ちゃんと金庫も開いて、ちゃんと何の障りもなく商売できているわけです。一体、誰がこの金庫の鍵を開けたのか。「ご主人様あなたが開けたでしょう。あなたがしたのではないですか」。ところが、彼はその1時間前ちゃんとお祭りでブージャ²をやっているから、本人は狐につままれているわけ。という分身がそういう結果を出すわけ。普通のそういう方でも。

¹ rūpa : 変化する物質。

² ヒンズー教の神像礼拝の儀礼。ガンジス川で行なわれている。

とても有名な話は、今の「セント・フランシスコ・オブ・アッシジ」(アッシジのフランチェスコ)という方がすごい行者で、生まれたときに「天にまします、我らの神よ、命を与えてくれてありがとう」と生まれ落ちて、すぐ歩いてそう言った、といわれています。この方が法を話せば、真冬のときに雪が消えて花が咲くと。セント・ベルナルドという人は大金持ちで、この行者のために弟子になりたいと。「それではあなたの財産一切、分け与えなさい」と。「はい」と、そのまま分け与えちゃった。それでセント・ベルナルドとなって、ベネディクト会と言うのかな、前のローマ法王がベネディクト会で、今がフランシスコ会のこの方で。それでセント・フランシスコは、そこの街に狼がいて、狼が人を食わなければ生きていけないわけ。そこで「オイオイ、村人をこれ以上、食べないでね。お前、善いことないし、これからは餌をもらって暮らさなさい」と。それを話したら、それからは一切、人を襲わずに、人からもらった餌で生きていたわけです。

というふうに馬鳴菩薩という方は「法を説けば馬が鳴く」と。馬も分かると。つまり「愛」と、さっき言ったでしょう。愛の真髄を持たれた方は、本当の仏法をやっていることなのですよ。なぜかといったら「人のために尽くしなさい」「愛の中で生きなさい」という私の体験からそう言えます。

だから、これは何もクリスチャンだけの専売特許ではないのです。ジーザス(イエス・キリスト)自体が仏教の国にいて修行して、その前は「目には目を、歯に歯を」。チベットでブラフマ・ビハーラ(brahmavihāra:四梵住)、メッタ(慈)の行をやられたと思います。それで前にもお話したと思いますけれども、『Jesus in Kashmir』(キリスト様がインドのカシミールにいらっしやった)という文献があるのです。この文献は1000年前のイスラームの王様が書き留めたものであると。それで1980年だったと思います。そのときにジョン・ポール・セカンド(John Paul II)、ヨハネ・パウロ2世(1920-1978)¹法王かな。その方にダライ・ラマさんが「実は、ジーザスはイッシュァー(Yhoshua)という名前で、お坊さんになっています」と、その記録文献を持っていったわけです。だからよく絵を見てください。イエス様は必ずこんな私の衣を着ていますよ。ただチベット派だから赤いのです。よくよくどこの絵も必ずこの衣を着ています。「私はチベット派の比丘だ」ということです。だから結婚もしたわけなのです。去年「私は妻にこう言った」という文献が発見されたわけなのです²。それで、もう大騒ぎになったのだけれども、チベット派だから当然、結婚できるわけなのです。ところが、その後で「牧師は絶対、結婚してはいけない」というカトリックの掟があつて。というふうに時代、時代によって変わるけれども、ご本尊様が言ったことと、後で人が言ったことではちょっと変わってきます。

¹ ポーランド出身の第264代ローマ教皇で、本名はカロル・ユゼフ・ヴォイティワ。

² 紀元4世紀のパピルスの断片に古代エジプトのコプト語で「イエスは彼らに言った、私の妻は」と書かれていることが分かったので、ハーバード神学大学院のカレン・キング教授(神学)が「イエスが妻に言及していることを初めて示しているものだ」と、2012年9月18日、ローマで開かれたコプト語研究国際学会で発表した。

私がお伝えしたいことは「人のために尽くしなさい」「愛の中で生きなさい」という、この「二つの法」を今、持ってきてお伝えしたいということで、実際にそれは皆さん実行されているわけです。ネルソン・マンデラは「人のために尽くして、刑務所の中で30年間暮らした」と。マハトマ・ガンディーは「国のために命を落として、人のために尽くして、インドを独立させた」と。こういう偉大な方は別として、ありとあらゆる人は結局、尽きるころ、そこによって昇天していくのでしょうか。ということは仏法そのものを実践しているから、宇宙の真理と合うから、当然どんどんどんどんアセンション（上昇）と言うのですか、どんどん上がって行って、やはり菩薩行をしているということになります。

それを「何々教」「何々宗」。イスラームの中でも、たくさん立派な方がいると思います。だから、私のイスラームの友だちは「戦争したくない、殺したくない」、そういうことが大嫌いで、「そういうことを聞くのが本当に嫌だ」と言っていました。だから、人間は力を持てば「狂気に走る」のですね。「狂う」というのは「けものへん」に「王」でしょう。王様は力があるでしょう。だから、昔の言葉は的確に書き留めているわけ。人間は巨大な力を持てば、狂うわけです。「けものへん」に「王」。ただし、人の話をよく聞き、言葉巧みに真理を説く力を持つ方は「聖者」。（「聖」は）「耳」と「口」と「王」。というふうに、昔のご先祖様方がこういう素晴らしい漢字とか残してくれているのに、そういうことを実践しなくて「西洋哲学だ、何だかんだ」と、そんなこと漢字の中にピタリと言い当てているのに、それをス、ス、スと。たったこの言葉二つだけでも本当に分かったら、この現世で合格だと思います。天界のことについてよいですか。

六欲天

【参加者】

天界の六つの段階を教えてくださいませんか。

【水源師】

第一段階（四天王、四大王〈衆〉天）は、地上の50 mから100 mの間にいる「権化」とかいわれる、人間が死んだ後、木に住む優れた方々とか。前にもお話ししたけれども、パオの瞑想者で「その前の前の人生は、私は木の神であった」と。なぜならば、その前に死んだとき、とても善いことをしたから、そういう木の位をもらって、そのそばを離れずに暮らしていたわけですね。そうしたら、奥さんが夜な夜な変なことがあるから、どういうことかとお坊さんをお呼びしたわけ。そうしたら、供養して食事を与えたときに、この人がその木から離れて、人間に生まれ落ちたわけ。そして、となり村に生まれ落ちて全部分かっているわけ。「ああ、これは私の奥さん、これは私の息子、これは私の妹、これは近所の人、これは私の家」と、全部覚えているわけ。この方はパオですごく修行がよくできて、英語も話せるから、今は台湾の方で指導しています。だから、彼の首とか体にはいまだに木のマークがあるわけ。赤く木の肌というか、皮膚がそうなっている。それが第一段階。

第二段階は「サッカ」（帝釈天）とあって有名で、「忉利天」（三十三天）とあって、いつも満月と新月のときに仏法をやっているかどうか見回ってきて、仏法をよくやっている人には、ご褒美を与えると。だから「満月と新月の瞑想」はとても大切。ということで、南伝ではいつもお祭りをやっています。

第三天は「夜摩天」（焰摩天）。第二天よりも、もっと素晴らしいところで。

第四天（兜率天）は全てが綺麗な方ばかり。第二天もそうだけれども、そこは1日に1回、必ず自動的に食料が入ってきます。それを食べれば、お菓子のような素晴らしい食べ物が出てきます。その第四天に「兜率天」があります。もうそこはいるだけで楽しいと。

ところが、第五（楽変化天〈化楽天〉）、第六（他化自在天）と最後の方に行けば、自由自在に何でもつくれるという天界。思ったことがすぐ地球上に何でも発生させるとか、何でもできるわけ。私も全部、覚えていないので、ただ実際に少しだけ観ているので、そういうお話ししますけれども。

結局、第四天では、もうそれはきれいな綺麗な男も女も、とても綺麗な感じで、汚れ一つないと。ただし、死ぬときには衣がどんどん汚れ始めるわけ。それで、死が近づいているということが分かる。そして、スッと空中から消えてしまう。天界では、そこだけがダンマ（法、真理）を得られるところ。

そのキング・サッカ（帝釈天王）も遊び呆けて、仏教の修行を忘れてしまうわけ。あまり楽しいから、踊ったりダンスしたり。それで注意されて「あ、忘れた」というくらい楽しい。第五天になれば、この地上界は臭くて降りてきたくないと。第四天が最高で降りてきてくれるけれども。だから、よく降りてきてくれるのが、第二天のサッカ王（帝釈天王）が降りてきてくださる。

だから、1046歳とかそういう比丘方たちは、やはりもう世俗の私たちの匂いが臭くて、臭くて、たまらないみたいです。だからウ・パンディタさんは、こうして鼻を隠して、この中で話していたけれども、ウ・パンディタ比丘さんには、私たちはものすごく非常に臭いみたい。私たちは、その方たちから見たら、醜悪な臭いを出しているみたいです。

【参加者】

その人は人間界に住んでいるのですか。

【水源師】

その方はミャンマーにいます。天界の人ではなく、人間界でも700歳、1000歳とか、そうになったら200歳の人はまだ全部、被らないで話していました。まだ人間は耐えられるみたい。やはり500歳、700歳になったら、もう全部、耐えられなくて隠していました。



左からウ・コビタ比丘 (1046 歳)、ウ・パンディタ比丘 (758 歳)
シン・オッタマヨ沙弥 (561 歳)、バドゥー・タン・アン優婆塞 (204 歳)



水源禅師と鼻を隠されているウ・パンディタ比丘 (758 歳)

異次元空間—弘法大師、五百の辟支仏、龍殿、パウオン—

【参加者】

弘法大師もそういうような同じような形でいるのですか。

【水源師】

弘法大師様の伝説を読めば「岩の中に入っていった」と。その 200 年後に偉いお坊さんが岩の中に入っていったら、爪が伸びて髪がぼうぼうで、そして食事もしていなかったので、髪を切ってあげて、綺麗にしてあげて、そういう話を聞いたことがあります。でも、人間の目には見えないけれども、その偉いお坊さんがしてあげたと。結局、岩の中はまた、岩の空間の世界があるのですよ。だから、有名なお話に「ラジギール山の中には 500 のパーチェカ仏陀（縁覚、独覚、辟支仏）が住んでいる」という詩がお経にあります。というふうに、お釈迦様が言っています。だから、パーチェカ仏陀というのは、まだいっぱい存在しているわけです。私の弟子が「どうして、そのイシギリ（仙人掘山）には 500 の辟支仏が住んでいるのですか」と。

サンマサン仏陀（正覚仏陀）とパーチェカ仏陀の違いは、パーチェカ仏陀は悟っているけれども、「皆に法を説けない」わけなのです。ただ善いことばかりする方々です。でも、法を持っているわけです。サンマサン仏陀は、お釈迦様みたいにダーッとすべて回答できるわけです。菩薩はパーチェカ仏陀の下のはずです。やはり仏陀は仏陀で高い位にある。だから、南伝ではパーチェカ仏陀を非常に尊敬して「そのイシギリ（仙人掘山）に 500 のパーチェカ仏陀が住んでいる」と。（私の弟子が）「これはどういうことなのですか」、（水源禅師が）「はい。石の空間もあります。石の中では石の中に住める生命体になっています。私たちは外で住んでいるけれども、ちょうど水の中と空中みたいに石の中も石の空間があります。その中で自由自在に動いています」と。そうしたら「あー、分かった」と。だから、アイスランドに行けば「石の中に入って、石の中から出てくる」という生命体で、人間みたいなのがいっぱいいると。シベリアのシャーマンは突然、空気が冷たくなって寒くなったときに、石の中に入っていくと。

なぜ、私がこう言ったかと言ったら、私がチチカカ湖のプーノに行ったときに「龍をまつる神殿」というのがあるのです。巨大な岩で有名で、そこは他の世界に通じるということで有名だけれども、私がそこで額を付けて瞑想したら、光がスーッと出てきて、ちょうどガラスを通すみたいに、あちらが見えるわけなのです。そうしたら、それが女神の形になってサーッと近づいてきて、ダ、ダ、ダ、ダ、ダーッと、いろいろなお告げをしてくれるわけ。だから、私たちにとっては絶対に入れない石でしょう。ところが、その生命体にとっては、ちょうど普通に何も変わらない空間なわけです。だから、私側から見たら、ガラスみたいに奥までスーッと見えるのです。

この現象がボロブドゥール¹のパウオン²というところで拝んで頭をくっつけたら、こう付けたら、池の底みたいにフーッとこう浮かんでいるのです。ちょうどその状態。またこの目で見たらこうでしょう。頭を付けたらスーッとスペースが出てくるのです。

というふうに、何か話が飛んでしまったけれども。いろいろな生命体がこの地球にはいます。お釈迦様が「インギリには500の聖者・パーチェカ仏陀が住んでいる」ということで「空間がある」と。それで第六天がそういうふうになって、その後はブラフマン（梵天）の世界で、（天界二十八天のうち）確か二十四天まで行くはずでしたね。そういう天界に行くときには、宇宙船で迎えに来ないのですよ。どこか旅をして仏陀が連れていくわけでもないのです。死ぬときにダーッと馬車が現れるのです。四つの馬で引く、そういう馬車が出てくるわけなのです。その因縁によって、どこに乗るかによって、その天界に行ってしまうのです。だから、死ぬときに、その馬車が出てきたらしめたものです（笑）。

ピラミッドのカーボロブドゥール寺院遺跡群—

【参加者】

何か月前にボロブドゥール³に行ってきたのですが、あそこはイスラームの国ですね。行ってみると、もう聖地というより観光地ですよ。お釈迦様のお顔が1箇所だけちゃんとむき出しになっているところなんかは、観光客がよじ登って写真を撮るとか、聖地のかけらも感じられないのです。今、あそこの役割というのは、今でも残っているのですか。

【水源師】

はい。結局ピラミッドの力ですね。ピラミッドと、それからもう一つムンドゥ⁴、その中間のゴールデンポイントにパウオン⁵、という中間点があるのです。

護摩焚きしたときに護摩焚きした丘、仏が見ている真ん前のずうっと遠くの丘で私たちはやったのだけれども。護摩焚きをやったら、山が3回くらいドーンドーンと振動するのです。そして、近くにいる象さんが1時間くらいワーツとラップを鳴らして、ダーッと突風が吹いてきて、光が差して、地・水・火・風の現象⁶をパーッと起こして。

それをやって、今度はムンドゥで護摩焚きをやったときに1時から始めると。なぜか前は朝。今度は午後。太陽が東から上がって西に降りるでしょう。赤不動は東なのです。東から

¹ インドネシアのジョグジャカルタ郊外にある世界三大仏教遺跡の一つ。近年の研究で「密教の曼陀羅を表している」といわれている。

² Candi Pawon（チャンディ・パウオン）：インドネシアのジャワ島中部の都市ジョグジャカルタ郊外にある仏教寺院遺跡。ボロブドゥール寺院遺跡群の一つで、ボロブドゥールとムンドゥ寺院を結ぶ直線の間位置している小さな寺院跡である。

³ 同頁・脚注1参照。

⁴ Candi Mendut（チャンディ・ムンドゥ）：ボロブドゥールから東に約3kmの場所にある仏教寺院遺跡。かつてはボロブドゥールとムンドゥとの間を一直線に結ぶ旧参道があったといわれている。すぐそばにパンニャバロ長老のお寺がある。

⁵ 同頁・脚注2参照。

⁶ 山が振動し（地神）、優しい雨が降り（水神）、強い風が吹いた（風神）。

上がって西に行くでしょう。だからムンドゥは赤不動の役割するわけ。青不動が結局、西で冬至の青不動になるわけ。だから、高野山の赤不動は東にあって、西に青不動があるはずなのです。そういうふう設定されている。私は青不動の西の方から拝んだわけです。だから朝早く。赤不動の東のときには午後になるわけです。それで1日の結界を結べるわけ。そういうふうにして護摩焚き二つやったわけ。

その第1回の護摩焚きを終わった後に、皆さんと一緒にパウオンに行って瞑想しました。そのときなぜか第九禪定（滅尽定）に入ったら、天界がブワーッと開いて、そこから天界の神々がバーッと降りてきて、そして今、地球は大惨事にならないようになっています。そのときに全ピラミッドが何かつながったみたいで。ピラミッドというのは、そこだけではなく、中国にもあり、アフリカにもあり、全世界の構築されているわけ、地球を守るために。だから、全ての聖地にはピラミッド型で造られている。

【参加者】

先生が行かれて護摩焚きをされたときには、そういう力があつたかもしれないけれども、自分が行ったときには普通のところで。

【水源師】

まあ普通のところでしょうね。何も感じられないけれども、そのときのタイミングがとっても大切だったみたいです。

というのは、護摩焚きをするときには火天・火の神に祈らなければいけないのです。火の神は普通のおじいさんみたいな白い服を着て質素なのです。その火天様がサールナート（鹿野苑：初転法輪の地）をお参りして、お釈迦様が最初に説法をしたところで頭を下げたら、その火天が出てきて、その映像も出てきたのです。その前の年に行ったら、その映像の立っている場所が、そのボロブドゥールの門だったのです。ボロブドゥールの丘は見えないけど、門だけ見せてくるわけ。

それで、その意味が分かって、それで護摩焚きをして「12月21日、このときが大切だ」と。「28日が満月で不動明王の日」と。パウオンに行って、私と一緒に深い瞑想をしたら、スゴイ体験すると思いますよ。というのは、その後、カナダから生徒が二人来て、一緒に瞑想をしたら「あら不思議、私が猫になってみんなを見ている」とか「その真ん中からフワーッと金粉が上がっています」と。それはそうでしょう。その後でもスーッと。結局、誰も彼も行っても、ただ座っても何も起こらないわけです。

結局、私がポータル・入口になって一緒に瞑想したときに、いろいろな不思議な体験が起こるみたいです。私の生徒に聞いても、生徒同士でやっても何も発生しない。先生が来たら、いろいろなことが観えるということで毎年毎年、来るわけです。あちらの人は現実的だしね。体もどんどん治っていくし。オーラカメラで見たら全然、違ってしまふわけです。それから、自分の心の状態を計るバロメーターみたいなものがあるのだけれども、瞑想した後はすごく善い結果を出しているわけです。この人は医学関係のお医者さんに近いところにおいて、医学を非常に知っている方だから、そういうことで何が発生しているのかが分かるわけです。そう

いう人はデータがないと信じ込まないでしょう。そういうデータで明快に出てくるから、ますます信じちゃう。頭ではなく測定できるデータが出てくるからですね。

オーラカメラと現代の測定機

【参加者】

「オーラカメラ」というのは何ですか。

【水源師】

何かロシアの人が作ったカメラで写真を撮ったらオーラが見えるわけなのです。心の状態によって、オーラの位置と色が違うわけです、精神状態によって。どうしたら聖者みたいなオーラが出せるかは、これは瞑想しかないけど、瞑想を深くやっていったら、だんだんオーラの色が変わっていく。いつも怒るとかイライラした人は、赤黒い汚い色になっています。黄色とか緑は普通の人とか、ちゃんとあるみたい。

もう一つは何かの測定器があって、測定したら数字が出てくるみたいですね。そのグラフが出てきて「瞑想する前はこうだったのです。した後は先生、私は今こうなっています」と、3年目にそのデータを見せてくれました。仏教の修行の状態も、もう紙に表れる状態なのですよ。だから、西洋の方では「実際、実践、実践」で実践仏教をやってしまうのです。ということ、またあちらでは望んでいるし。結果を見たいと。体もどんどん変わってしまったようです。

無色界

(天界二十八天のうち) 第二十四天まで行きましたね。無色界はその上になります。ブラマンの上。それは四つの無色界(空無辺処、識無辺処、無所有処、非想非非想処)があって、最高の生命体になれば、もう無色界だから体はないのです。でも、「一生は一生」で「無色界の一生」も「犬の一生」も同じなのです、生きて見ているその時間帯は。

ただ、この最高の生命体に行けば、64,000回、この宇宙が発生・消滅、発生・消滅。ただずっと見ているだけです、ダーッと流れで。でもダンマ(法、真理)の世界ではないわけ。だから「犬の一生」も「ものすごい超生命」も実は「一生は一生」なのです。100年であろうが、100万年であろうが、1000年であろうが、「一生は一生」なのです。だから「短いから、長いから」ということは、あまり関係なく、「いかに時空でダンマを得るか」ということが、最大の問題です。

【参加者】

その今の先生のお話ですと、そういうすごい天界に生まれるということは、別にその考えから言ったら「解脱のチャンスがないから、それが幸せではない」ということですか。

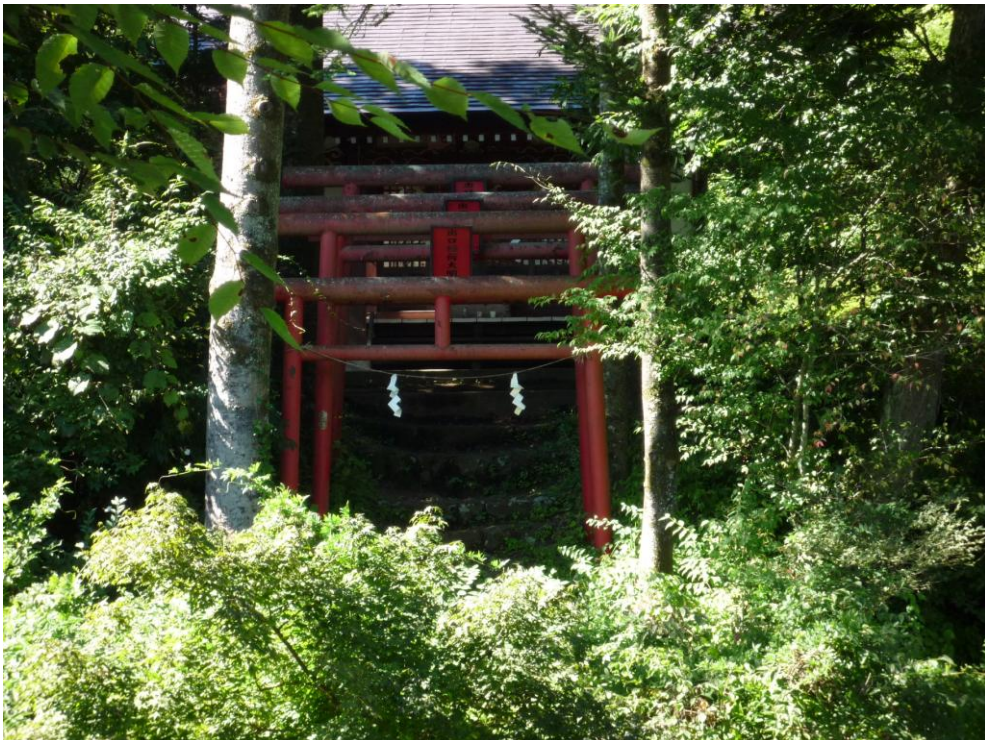
【水源師】

そうですね。毎日、歌って踊って、いつまでもいつまでも生命体にいるというのは、パニックにも陥るでしょう、「今度どうしよう」と。それで、これが輪廻で、くるくるくるくる、いろいろな生命体に入って行く。それ善い処に行けばよいけれども、「人間に生まれるには、この大地を見てください」と。「爪の上にとった土くらいしかありません」と。

ということは、先ほど言ったように、法を受け取る人間はほとんどいないから、無明の知識でいくから、当然なりませんね。この中でも本当に「人のために」「愛のために」生きた場合には、その天界にポンポン上がってしまうし。何か大丈夫ですか、皆さん、ファーッとして。お釈迦様に比べたら、こんののではないでしょう。だから「お釈迦様はすごい」と。だから「仏の大世界はすごいものである」と。



難陀竜王をまつる出口池（忍草第一番の霊場）



出口池の高台に建つ出口稻荷社

水源禪師法話集 26

(2013年10月14日 忍野合宿)

2014年11月24日 発行

編集兼発行 一乗会